

≪投稿規程≫

1. 目的

公益社団法人 石川県理学療法士会(以下当会)の機関誌として、理学療法および関連領域における、実践報告と研究発表の場を提供すること。

2. 記事の種類

原著、報告、調査、症例報告、その他とする。(詳細は日本理学療法士学会学術誌「理学療法学」の投稿規程に準ずる。)

3. 投稿資格

筆頭著者は原則として当会会員に限る。但し、学術編集部の決定により、会員外の著者に原稿を依頼することができる。

4. 投稿原稿の条件

投稿原稿は、他誌へ発表、または投稿中の原稿でないこと。投稿規程および執筆規程(日本理学療法士学会学術誌「理学療法学」の執筆規程)に従って作成すること。また、投稿に際しては必ず共著者の同意を得ることとする。

5. 利益相反

利益相反の可能性のある事項については、本文中に記載すること。なお、利益相反に関しては日本理学療法士学会が定める「利益相反の開示に関する基準」を遵守すること。

6. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、当会に属するものとする。

7. 研究倫理

ヘルシンキ宣言および厚生労働省の「ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針」などの医学研究に関する指針を遵守し、被験者・症例の了承を得たことを本文中に明記すること。また、研究にあたり所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会(準ずる機関を含む)の承認を得た場合には倫理審査委員会名および承認番号(または承認年月日)を記載すること。さらに被検者の症例の個人情報保護のため、氏名生年月日など特定の個人を識別できるような記述をしないようにすること。また、所属施設において個人情報保護の規定がある場合は、それに従って原稿を作成すること。

8. 原稿の採択

原稿の採否、掲載順は編集委員会で決定する。査読の結果、加筆、削除および原稿の修正を求められることがある。修正する場合は、修正した論文と、何処を修正したのか明解に判断できるもの、査読意見に関するコメントをあわせて提出すること。

また、編集委員の責任において、字句の訂正を加えることがある。

9. 校正

著者校正は原則として1回とし、誤字脱字を除く文章および図表の変更は原則として認めない。

≪執筆規程≫

1. 論文の構成

(日本理学療法士学会学術誌「理学療法学」の執筆規程を一部引用)

1) 標題(表題):内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。なお、30字以内のランニングタイトル(簡略標題。標題を短くしたもので、標題よりもさらに主題に絞り込んだもの。標題が30字以内であれば同じでもよい)を記載する。

2) 著者名:著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。著者資格については統一規定(国際医学雑誌編集者委員会:生物医学雑誌への投稿のための統一規定(http://www.icmje.org/urm_main.html))を参照すること。なお、審査開始後の著者の変更は原則認めない。

3) 要旨:「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する。また、研究論文(原著)、短報以外の記事の種類論文においては、著者の判断で項目名を変更してもよい。

4) キーワード:3~5つとする。

5) 本文:本文は原則以下の項目に沿って本文を構成すること。ただし、研究論文(原著)、短報以外の記事の種類論文においては、著者の判断で項目名を変更してもよい。

①はじめに(序論、緒言)

研究の背景、臨床的意義、研究の目的、取り扱っている主題の範囲、先行研究との関連性の明示などを記述する。

②対象および方法

用いた研究方法について第3者が追試できるように記述する。倫理的配慮も記述すること。

③結果(成績)

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは、検証、追試を行いやすいように図(グラフ)よりも表にして数値で示す方が望ましい。

④考察（分析）

結果の分析・評価、今後の課題、などを記述する。

⑤結論

研究で得られた結論を 200 ～ 300 字で簡潔に記述する。

⑥利益相反

利益相反の有無について記載する。

⑦謝辞

著者資格には該当しない研究への貢献者については謝辞に記載する。

6) 文献：引用文献のみとする。

2. 原稿の構成

本文、図表、図表の説明文などで構成する。このとき、本文は本文のみ、図表は図表と説明文を含むファイルで作成すること。

3. 要旨

300 字程度の和文要旨をつけること。

4. 図表

図・写真・表：図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつけ、挿入位置は本文の右欄外に指示すること。図・表を転載する場合は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、投稿時に許可書を提出すること。図の番号およびキャプションは図の場合は図の下に、表の場合は表の上につけること。

5. 表記

外国語名（地名、人名、その他）は、原則として原語を用い、略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

6. 文献

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁（最初～最終）の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載する。文献名の省略は米国国立医学図書館（<http://www.nlm.nih.gov/bsd/>

[uniform_requirements.html](http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html)）に従う。引用文献の著者氏名が3名以上の場合は最初の2名を記載する。

[例]

1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程— Ten Step Test を用いて—, 理学療法学, 2008; 35: 35–41.

2) Tompkins J, Bosch PR, *et al.*: Changes in Functional Walking Distance and Health-Related Quality of Life After Gastric Bypass Surgery. *Phys*

Ther. 2008; 88: 928–935.

3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床— (第3版). 医学書院, 東京, 2001, pp156–168.

4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp97–112.

5) 名郷直樹: EBM の現状と課題, エビデンスに基づく理学療法 活用と臨床思考過程の実際. 内山 靖 (編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp18–38.

6) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/index.html>
厚生労働省 研究に関する指針について (参照 2020-01-07)

7. 数量の単位

単位は国際単位系(SI 単位)を用いる (長さ: m, 質量: kg, 時間: s, 温度: °C, 周波数: Hz, 等)

8. 別刷

別刷を希望される方は 30 部を無料で贈呈する。それを超える部数については実費を徴集する。

9. その他

- 1) 必要がない限り表には縦線は使用しないこと。
- 2) 本文中には行番号および頁番号を必ず記載すること。

10. 原稿送付先および連絡先

〒920-0942 石川県金沢市小立野 5 丁目 11-80

石川県理学療法士会 学術誌編集部

Tel: 076-265-2623

E-mail: mmt@ishikawa-pt.com

(2020 年 1 月 7 日改訂)